

鶴嶺東地区まちぢから協議会会議報告書

部会名	地域福祉部会	会議名	第 3 回会議		
日付	2024/11/15	場所	鶴嶺東コミセン	記入者	濱田
<主な内容>					
地域福祉部会のメンバー団体の情報共有を行い、現在の課題や対応について意見交換の場となりました。					
① グループ					
・ 地区社協：地区社会福祉協議会は参加者メンバーでもどんな役割を持っているか知らない方もあり、地域福祉の活動の話して頂きました。					
鶴嶺東コミセンで行われるサロン・ボランティアセンターの運営・地域の腹心関する懇談会等の企画開催					
地区の防災を考える等の活動のお話を頂き課題としては、「担い手が」が不足している実情があります。					
・ 世話人：円蔵・TBS・サニータウンで高齢者の身近な集いどころとしてサロン活動を行っていが参加者が少なくなっている。また担い手も少ないことが課題となっている。					
・ 子供会：鶴嶺地区2箇所の子供会（TBS・矢畑）。TBS子供会の活動方法や参加状況から、自動加入だが役員に負担がかからない工夫をされているお話でした。：子供会がなくなった地域では地域のお祭りやイベントに子供たちの参加が増え賑やかになっている。					
② グループ					
団体ごとの活動状況について自己紹介とともに行いました。続いて団体が抱える問題について発言してもらいました。					
どの団体も、担い手不足とイベント等の企画・運営に苦労していることが共有できました。					
年々担い手の高齢化や人手不足によって活動が縮小されたり廃止されたりしていく現状のなか、今までのようなやり方では継続が難しくなってきたところをどう解消すれば良いのかヒントが欲しいと考えていることもわかりました。					
ヒント					
・ 高齢者向けの活動団体、子ども向けの活動団体などがあるが、横のつながりの中での情報は入手できても活動対象の枠を超えたコラボイベントなどを行うようになってお互いが応援・協力する活動が出来るようになった事例の紹介がありました					
しかしながら自治会単位での範囲にとどまりその枠を超えることはなかなか難しいとの声もありました。					
要望					
・ コミセンなどにそこを利用している活動サークルの紹介などの情報があると、イベントなどに声をかけるのに役に立つのではないのでしょうか などの意見がありました。					
まとめ					
各団体の活動や役割をお互いに情報共有し連携することで「つながる・安心できる地域」となる。連携のためのコーディネーターの役割を果たす存在も必要。					
<次回の予定・内容>					
令和7年1月17日（金曜日）13:00～					
<その他>					
欠席者：円蔵老盛会、円蔵自治会推薦、松の実子ども会、はしぐい子ども会、ホームタウン子供会代表					
鶴小保護者会と先生の会、円童豆の会長、円蔵中保護者、民生委員、円小青少年推進協代表、					
郷小青少年推進代表、					